

✕ ご寄付のお願い

次代を担う青少年のために、皆さまのご支援をお願いいたします。

イオンワンパーセントクラブでは、青少年の教育や国際交流、地域文化の保全などの活動に取り組んでいます。今後、私たちの活動内容をさらに充実させていくために、皆さまのご理解とご賛同をいただけるようでしたら、ぜひご支援の程よろしくお願い申し上げます。

ご寄付の方法



クレジットカード
決済



WAON POINT
利用



銀行振込

寄付受付画面にお進みいただき、
ご寄付の方法をお選びください。
<https://aeon1p.or.jp/1p/about/donation/>

寄付受付画面は
こちら



公益財団法人 ワンパーセント イオン1%クラブ

〒261-8515 千葉市美浜区中瀬1-5-1

TEL.043-212-6023 FAX.043-212-6461 E-mail 1p@aeon.info

<https://aeon1p.or.jp/1p/>



ホームページ



Youtube



Instagram



2026.7



概要書2026-2027

Future with smiles

「お客さまからいただいた利益を社会のために役立てる」という想いのもと、4つの事業の柱を基盤として環境・社会貢献活動に取り組んでいます。



青少年の健全な育成

環境・社会をテーマに、青少年が社会的なルールを学びながら、身近な地域の問題を主体的に捉え、考える力を育てます。また、地域や国を超えて教育機会の充実に取り組みます。



地域社会の発展への貢献

地域に根ざし、次代に引き継ぐべき伝統行事や文化の継承を支援するとともに、地域社会が抱える諸問題の解決に取り組めます。



諸外国との友好親善

学生たちに国際的な文化・人材交流の機会を提供し、相互理解を深めることで、グローバル人材を育成するとともに、日本と諸外国との友好親善を深めます。



災害復興支援

国内外で発生した災害により被災した方々が日常生活を一日でも早く取り戻せるよう、災害の発生に際しいち早く支援金や支援物資をお届けすることで、被災地の復旧・復興にむけた支援活動を続けています。



ご挨拶

日頃より、公益財団法人イオンワンパーセントクラブの活動にご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

イオンワンパーセントクラブは、イオングループの基本理念を具体的な行動に移し、社会的責任を果たすことを目的として1990年に設立されました。お客さまにイオングループをご利用いただき生まれた利益の1%相当額をもとに、「青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善」「地域社会の発展への貢献」「災害復興支援」を主な事業領域として、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。

2026年は、青少年の健全な育成事業の1つである「イオン チアーズクラブ」が創設から25年を迎えます。現在、イオングループの店舗等を拠点に、全国で507クラブ、約7,000人を超える小中学生がチアーズクラブメンバーとして体験学習を通じて自ら考える力を育んでいます。本年夏には、次代を担う青少年が、年齢や国籍の枠を超えて互いを尊重し合い、多様な価値観と行動力を身に着けることを目的に、チアーズクラブメンバーとアジア ユースリーダーズに参加するアジア6カ国からの高校生が交流する合同プログラムを沖縄で開催します。

さらに、日本とアジアの高校生が互いの国を訪問し、政府への表敬訪問や歴史文化体験を通じて理解を深める「ティーンエイジ アンバサダー」をベトナムとカンボジアの2カ国を相手国として開催するほか、日本やアジア各国で学ぶ大学生への奨学金「イオン スカラシップ」を継続してまいります。イオン スカラシップでは、昨年同窓会が設立され、日本と母国の架け橋として活躍するOBやOGによる現役奨学生への支援の輪も拡がりつつあります。

当財団は、笑顔あふれる未来の実現を目指し、お客さまをはじめとする多様なステークホルダーの皆さまとともに、次代を担う青少年の可能性を広げる取り組みを推進し、地域社会の更なる発展に寄与してまいります。

公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

理事長 渡邊 廣之



設立の経緯

企業による社会貢献活動が、日本において未だ本格化していなかった1990年、ジャスコ株式会社代表取締役会長(当時)岡田卓也の提唱により、「イオングループ1% (ワンパーセント)クラブ」が設立されました。

ジャスコ誕生20周年を機に、「絶えず革新し続ける企業集団」として、『平和』を追求し、『人間』を尊重し、『地域』に貢献する」という新生イオングループの基本理念の具現化を図り、社会的責任を果たすことがその趣旨でした。

社会貢献活動の原点は、イオンの前身のひとつである岡田屋の時代に遡ります。1958年、「風樹会」という交通遺児育英会を組織し、5人の高校生へ奨学金として給付したのが始まりです。この活動は後に連携した企業にも受け継がれ、できることから始めるという企業風土を醸成するきっかけとなりました。

各企業の業績にかかわらず継続的に社会貢献活動を行うため、グループ主要企業各社が税引き前利益の1%をイオンワンパーセントクラブへ拠出し、それをもとにグループを挙げて、環境・社会貢献活動に取り組んでいます。



設立総会(1990年8月1日)



青少年の健全な育成

環境・社会をテーマに、青少年が社会的なルールを学びながら、身近な地域の問題を主体的に捉え、考える力を育てます。また、地域や国を超えて教育機会の充実に取り組みます。

イオン チアーズクラブ



中学生作文コンクール



イオン サステナビリティ アクション アワード



イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン



近野教育振興基金



Healthy Development of Youth

2026年度 事業活動予定

イオン チアーズクラブ

- 7月～8月 首里城復興支援ポスターコンクール募集期間
- 7月下旬 イオン チアーズクラブサマーキャンプ(沖縄県)
- 11月下旬(予定) 首里城復興支援ポスターコンクール表彰式・表彰ツアー(沖縄県)
- 1月～3月 壁新聞審査会(全国各地)

中学生作文コンクール

- 6月～9月上旬 募集期間
- 11月下旬 表彰式・環境エコツアー(神奈川県)

イオン サステナビリティ アクション アワード

- 7月～8月 募集期間
- 12月中旬 最終審査会・表彰式・環境エコツアー(東京都)

イオン ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

- 4月～5月 募金期間
- 7月下旬 寄付金贈呈式(カンボジア・ブノンパン)

近野教育振興基金

- 4月 高校生奨学金募集期間
- 6月 奨学生認定証授与式(山形県)
- 8月上旬 奨学生セミナー(山形県)
- 8月～9月中旬 大学生奨学金募集期間

※2026年度: 2026年4月～2027年3月



2025年度 クラブ・メンバー数

507クラブ **7,173**人

※2025年度末時点

実際に見て、触れて、考える



宮城大学チアーズ農園でさつまいもの収穫

壁新聞審査会



イオン チアーズクラブ日向の壁新聞

イオン チアーズクラブは2002年より(当時:イオン こどもエコクラブ)、小中学生が環境や社会貢献活動に興味・関心を持ち、考える力を育む場として、全国のイオングループの店舗等を拠点に、体験学習を行っています。2025年度は全国各地で約500クラブが、動植物の調査など、さまざまな体験に取り組みました。特に、チアーズ農園では子どもたちが種まきや苗植え、除草などの管理作業や収穫など一連の農作業を体験し、農作物を作ることの大変さと喜びを実感しました。

年度末に1年間の活動を振り返り、活動の成果を模造紙にまとめ、発表する「壁新聞審査会」を開催しています。メンバー同士が協力し合いながら壁新聞を作成し発表することで、「考える力」や「情報を整理し、伝達する力」を育みます。各地域で予選を通過したクラブは全国11カ所で開催する最終審査会に進出します。自治体関係者やマスコミ関係の方々に審査員としてご参加いただき、壁新聞の出来栄や発表内容について評価が行われます。入賞クラブは7月に沖縄県で開催するサマーキャンプに参加します。

イオン チアーズクラブ 活動事例



わくわくキャッシュレス体験

～たのしくまなぶお金のミライ～

イオンフィナンシャルサービス株式会社ご協力のもと、全国各地で金融教育イベントを開催しています。1億円分の現金の重さ体験やスマートフォンを使ったお買い物体験、現金払いと電子マネーによるキャッシュレス決済で支払いにかかる時間の差を体感するなど、キャッシュレス決済の利便性を学びます。



もしものときの防災教育

イオンディライト株式会社や地元の消防署のご協力のもと「VR防災体験車」や「煙体験ハウス」で地震や火災の際の避難方法を学ぶ防災教育を実施しています。また、「水消火器体験」で消火器の正しい使い方や操作のポイントを教わり、放水体験を実施するなど、防災への備えを学ぶ機会を提供しています。



オーケストラ・リハーサルの見学・楽器演奏体験

公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会ご協力のもと、パシフィック・ミュージック・フェスティバルのアカデミー生との交流やオーケストラ・リハーサルの見学を実施しています。また、ヴァイオリン等の楽器演奏の体験を行います。



中学生作文コンクール [中学生]

Junior High School Writing Competition



2025年度 応募数

17,122作品

累計応募数

49,757作品 ※2025年度末時点

考えをまとめ、言葉で伝える

後援：文部科学省、環境省、朝日新聞社、朝日中高生新聞
公益社団法人日本図書館協会、公益社団法人全国学校図書館協議会



受賞者、審査員、来賓による記念撮影



文部科学大臣賞の授与



審査員の方々と交流会

中学生が環境や社会問題をテーマに自分自身の考えをまとめ、書く力や相手に伝える力を養うことを目的に、2003年より実施しています。2025年度は「未来へつなぐ、わたしのエコ活動」をテーマに作文を募集し、過去最多となる17,122作品が寄せられました。11月には、「文部科学大臣賞」、「環境大臣賞」、「イオンワンパーセントクラブ賞」等の受賞者を表彰式に招待し、その翌日には環境エコツアーにご案内しました。

✿ 環境エコツアー



グループの討議内容を発表

「環境エコツアー」の参加者は、品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」館内ツアーや展示見学を行いました。また、特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議の鈴木 克徳理事による「持続可能な社会づくりについて」の講義を受講しました。その後参加者たちは、グループに分かれてワークショップを行い、各自が取り組んでいるエコ活動について意見を交わしました。



イオン サステナビリティ アクション アワード [高校生]

(イオン エコワングランプリ)

AEON Sustainability Action Award



2025年度 応募校・件数

110校122件

累計応募数

1,809件 ※2025年度末時点

伝えたい、私が取り組むエコ活動

共催：毎日新聞社 後援：文部科学省、環境省



最終審査会での発表の様子



内閣総理大臣賞の授与



探究学習についてのワークショップを実施

地球の未来を想う高校生が日ごろ取り組んでいる環境保全や社会貢献のための活動を発表し合うコンテストです。他校の発表を聞くことで、新たな行動のきっかけをつかみ、表現力や発信力を向上させることを目的に、2012年より開催しています。「普及・啓発部門」、「研究・専門部門」の2部門で募集を行い、2025年度は、2次審査を通過した12校の学生が東京都内で活動のプレゼンテーションを行いました。「内閣総理大臣賞」、「文部科学大臣賞」、「環境大臣賞」など各賞の受賞校を決定し、表彰式では表彰状と副賞のエコ活動奨励金を授与しました。表彰式の後には、過去の内閣総理大臣賞受賞者による講演会とワークショップを行いました。第15回目を迎える本年は、エコにとどまらない多様な社会課題の解決に取り組むコンテスト「イオン サステナビリティ アクション アワード」としてリニューアルします。

✿ エリアミーティング



自クラブの活動を共有し他校と意見交換

他校との交流を通じて学びを深め、取り組みの充実や新たな気づきを得ることを目的に、エリアミーティングを実施しています。2025年度は、東京都、埼玉県、大阪府にて、環境活動に取り組む高校が集い、各校の環境活動の成果や課題を共有し、意見交換を実施しました。



イオンユニセフセーフウォーターキャンペーン

AEON UNICEF Safe Water Campaign



2025年度 寄付金額

6,362万円

累計寄付金額

7億774万円

※2025年度末時点

寄付金の使途例
詳細はこちら



子どもたちに、安全な水を

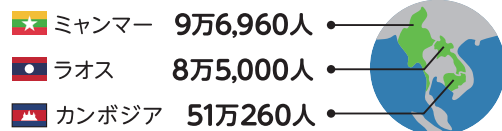


ユニセフカンボジア事務所代表 ウィル・パークス様(右) 当財団 渡邉理事長(左)



安全な水を供給した人数

累計 **69万2,220**人



きれいな水を使えるようになった子どもたち

カンボジア等の子どもたちに安全な水を供給するため、全国から寄せられた募金と当財団からの拠出金を、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて寄付しています。給水施設の設置等により遠方への水汲みに時間をとられ、学校の授業に参加できない子どもたちや、健康を害する恐れのある物質を含む地下水を生活用水として使う子どもたちを、教育・健康の両面で支援しています。2025年8月12日には、カンボジア・プノンペンで、「イオンユニセフセーフウォーターキャンペーン2025」贈呈式を行い、皆さまからお寄せいただいた募金と当財団からの拠出金をカンボジアとラオスへ贈呈しました。



近野教育振興基金

Konno Education Fund



2025年度 高校生奨学金給付人数

34名



2025年度 高校生奨学金 支給総額

816万円

※2025年度末時点

ひとりひとりの心に種を蒔きつづけます



選考委員長より認定証授与

2024年8月、山形県米沢市に所在する公益財団法人近野教育振興会より、同市の高校生を対象とする奨学生支援事業を継承しました。2025年度より対象を山形県置賜地区全域の高等学校に拡大し、未来を担う優秀な高校生を支援しております。また、新たに大学への進学を志す置賜地区の高校生を対象とする奨学金の募集を行い、2026年春の大学進学者への給付を開始しました。

✳ 奨学生セミナーの開催



地域貢献についてグループディスカッション

2025年11月、山形県米沢市内にて高校生奨学金と大学生奨学金の奨学生が近野教育振興基金奨学生セミナーに参加しました。午前中は、地域が抱える環境問題について講義を受講し、置賜地区が抱える現状や課題について理解を深めました。午後には将来、地域とどのようなかたちで関わり、貢献していきたいかについて意見を交わし、自身の進路や役割について考えるきっかけとなりました。



Friendships with Other Countries



諸外国との友好親善

学生たちに国際的な文化・人材交流の機会を提供し、相互理解を深めることで、グローバル人材を育成するとともに、日本と諸外国との友好親善を深めます。

ティーンエイジ アンバサダー



アジア ユースリーダーズ



イオン スカラシップ



✿ イオン スカラシップ 20周年記念式典



歴代奨学生や現役奨学生等約280名が参加



参加者全員でWe are the Worldを合唱

20周年という節目を迎え、これまでの歩みを振り返るとともに、次代へ支援の輪を広げることを目的に会場には多方面で活躍する歴代奨学生や現役奨学生、大学関係者のほか、外務省や大使館より来賓の方々約280名が集いました。次の世代の奨学生へ伝えたいメッセージをディスカッションし、プレゼンテーションをしたり、参加者全員でWe Are The Worldを合唱する等世代や国籍を超えて交流を深めました。また、20周年を機に「イオン スカラシップ同窓会」を立ち上げ、国境を越えたネットワークを拡げる取り組みを継続してまいります。

2026年度 事業活動予定

ティーンエイジ アンバサダー

ベトナム

6月中旬 日本プログラム
10月下旬 ベトナムプログラム
11月中旬 カンボジアプログラム
1月下旬 日本プログラム

カンボジア

アジア ユースリーダーズ

7月下旬 沖縄県・東京都にて開催

イオン スカラシップ

7月中旬 認定証授与式・フォローアップセミナー
10月～12月 認定証授与式・日本語スピーチコンテスト(アジア各国)
2月下旬 修了式・フォローアップセミナー

※2026年度: 2026年4月～2027年3月



ティーンエイジ アンバサダー [高校生]

Teenage Ambassadors



2025年度 参加人数

120人

累計参加国・人数

18カ国 2,721人 ※2025年度末時点

アジアの国々をつなぐ、友好の輪 後援：外務省



セランゴール森林公園にてトレッキング体験

日本と海外の高校生が、互いの国を訪問し、国際的な相互理解と親交を深める交流プログラムです。文化や伝統、生活習慣の異なる同世代の若者たちが小さな大使(アンバサダー)となり、「表敬訪問活動」「交流活動」「歴史・文化活動」の3つの活動を通じて親交を深めます。1990年より実施しており、2025年度は中国とマレーシアを交流相手国として実施しました。

これまでに **18カ国の高校生** が参加しています

- | | | | | |
|----------|-----------|---------|---------|---------|
| ● 日本 | ● オーストラリア | ● ドイツ | ● ブルガリア | ● ミャンマー |
| ● イタリア | ● 韓国 | ● 中国 | ● ベトナム | ● ラオス |
| ● インドネシア | ● カンボジア | ● フィリピン | ● ペルー | |
| ● 英国 | ● タイ | ● ブラジル | ● マレーシア | ※五十音順 |



駐日マレーシア大使館を表敬訪問



首相官邸にて中国の学生より長島昭久総理大臣補佐官(当時)へ記念品贈呈

❖ 互いの国を訪問し、各国で3つの活動を行います

1

表敬訪問活動

首相官邸を表敬訪問



マレーシア首相官邸を表敬訪問



母国を代表する小さな大使として、各国の政府や自治体、大使館などへ表敬訪問を行います。

2

交流活動

授業体験



ホームステイ



学校での授業体験やホームステイを通じ、相手のくらしに触れることで、友情を育みます。

3

歴史・文化活動

マレー料理作り体験



組紐体験



伝統文化体験や史跡・施設見学を通じ、互いの国の歴史と文化を学びます。

プログラムの様子を一部、動画でご紹介しています。ぜひご覧ください

組紐体験
(日本・中国ティーンエイジアンバサダー)



セランゴール森林公園で
トレッキング体験 (日本・マレーシアティーンエイジアンバサダー)





アジア ユースリーダーズ [高校生]

Asia Youth Leaders



2025年度 参加人数

80人

累計参加国・人数

9カ国1,376人 ※2025年度末時点

国境を越え、多様な価値観を学ぶ 後援：外務省・文部科学省



グループディスカッション

これまでに9カ国の
高校生が参加しています

- 日本
- インドネシア
- カンボジア
- タイ
- 中国
- ベトナム
- マレーシア
- ミャンマー
- ラオス
- ※五十音順

高校生たちに、自分とは違う考え方や意見に対する理解を深め、視野を広げる場を提供し、次の世代を担うリーダーの育成を目的に実施しています。アジア各国の高校生が、社会問題をテーマに視察や専門家によるレクチャーに基づき、英語を共通言語として議論を重ね、解決策を提案するプログラムです。2025年度は「安全な水を得るために何ができるか」をテーマに日本、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、マレーシア、ラオスの8カ国から高校生80名が参加しました。

開催国とテーマ

- | | |
|-------------------|--|
| 第1回 生物多様性(ベトナム) | 第8・9・10回 食と健康(日本・インドネシア・ベトナム) |
| 第2回 持続可能な開発(ベトナム) | 第11回 コロナ禍に伴う学校教育上の課題と改善点・打開策(オンライン) |
| 第3回 水と経済(日本) | 第12回 食品ロス(オンライン) |
| 第4回 ゴミ問題(インドネシア) | 第13回 食べ物から考えよう、環境のこと(オンライン) |
| 第5回 大気汚染(ベトナム) | 第14回 食品メーカーが取り組むべきCO ₂ 削減(日本) |
| 第6回 ゴミ問題(中国) | 第15回 将来のリーダーに必要な資質(日本) |
| 第7回 水質問題(タイ) | 第16回 安全な水を得るために何ができるか(日本) |



東京大学教授による基調講演



表彰式にて最優秀賞受賞者を発表



イオン スカラシップ [大学生]

AEON Scholarship



2025年度 給付人数

566人

累計参加国・給付人数

8カ国9,923人 ※2025年度末時点

日本と母国の架け橋となる



認定証授与式(タイ)

2025年度
奨学金給付
人数日本
70人
アジア
496人

アジアの大学生を対象に、将来日本と母国の架け橋となり活躍してほしいとの願いのもと2006年より実施しています。国内では、アジアからの留学生および日本人大学生に奨学金を給付しています。また、奨学生同士の交流会やフォローアップセミナー、ボランティア活動などの機会を提供しています。国外では、インドネシア、カンボジア、タイ、中国、ベトナム、マレーシア、ミャンマーの大学で学ぶ現地の奨学生と日本人留学生に奨学金を給付しています。毎年各国で奨学生認定証授与式を開催し、大学を超えた奨学生同士の交流の場や日本語スピーチコンテストなどの機会を提供しています。

✳ 日本語スピーチコンテストを開催

文部科学大臣賞を受賞した
ハノイ大学 グエンさん(ベトナム)

日本語を学ぶアジア6カ国の大学生を対象に、「私にできる社会貢献」をテーマとしたスピーチコンテストを開催しました。10月から11月にかけて現地で開催した予選大会を経て選ばれた大学生24名が2月に都内の会場に集い、日々実践している社会貢献活動やこれまでの経験を活かして将来挑戦したいことを流暢な日本語で堂々と発表しました。最終審査では、文部科学大臣賞をはじめとする7名の受賞者を表彰しました。



地域社会の発展への貢献

地域に根ざし、次代に引き継ぐべき伝統行事や文化の継承を支援するとともに、地域社会が抱える諸問題の解決に取り組みます。

ふるさと未来支援



イオン すくすくラボ



✳ 公益法人への支援

地域の発展に貢献するとともに、青少年の情操教育に繋がる活動として、地域に根ざした文化振興に努める公益法人への支援を行っています。

セイジ・オザワ松本フェスティバル

サイトウ・キネン・オーケストラが中心となり長野県松本市で開催している日本最大の地域音楽祭「セイジ・オザワ松本フェスティバル」を2002年から支援しています。

パシフィック・ミュージック・フェスティバル

故・レナード・バーンスタインが創設した若手音楽家による教育音楽祭「パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌」の活動趣旨に賛同し、2015年からその活動を支援しています。



川端康成記念会

日本文学界における新人発掘に熱心であった川端康成氏の志を後世に継承し、神奈川県鎌倉市を拠点に日本文学の普及と文化継承に取り組む公益財団法人川端康成記念会を支援しています。

2026年度 事業活動予定

イオン すくすくラボ (6月・7月・8月) イオンモール幕張新都心にて子育てセミナーやワークショップを開催
ふるさと未来支援 (10月) 助成先募集期間

※2026年度：2026年4月～2027年3月

Contribution to
Local Community
Development



2025年度 助成件数

123件

累計助成件数

1,037件

※2025年度末時点

地域の暮らしと伝統を、未来へつなぐ



秋田竿燈まつり(秋田県秋田市)

ふるさとに受け継がれ、次の世代につなげるべき伝統文化、工芸技術の保存・継承と普及啓発に取り組む団体を支援し、その活動・行事が継続されることを目指しています。



宇原獅子舞(兵庫県宍粟市)



輪島塗



2025年度 参加人数

572人

累計参加人数

11,202人

※2025年度末時点

地域の子育てを、サポートする



乳幼児向けリトミックスカーフを体験

地域社会の持続的な発展を目指し、0歳から3歳の乳幼児のお子さまや未就学児とご家族を対象に、育児に関する深い知識を持つ講師によるセミナーや悩み相談会等を行い、地域の子育て世代をサポートする活動です。



乳幼児向けわらべうたやリズム遊びを親子で体験



講師による子育てセミナー



災害復興支援

国内外で発生した災害により被災した方々が日常生活を一日でも早く取り戻せるよう、災害の発生に際し、いち早く支援金や支援物資をお届けすることで、被災地の復旧・復興にむけた支援活動を続けています。

緊急災害復興支援



首里城復興支援



緊急災害復興支援実績

- | | | |
|-------|-----|---------------------------------|
| 2025年 | 10月 | ベトナム台風 21号：ベトナムへ5万USDを贈呈 |
| | 12月 | タイ、インドネシア スマトラ島南部豪雨：各国へ5万USDを贈呈 |
| 2026年 | 5月 | 岩手県上閉伊郡大槌町林野火災：1,000万円を贈呈 |



ベトナム社会主義共和国特命全権大使
ファム・クワン・ヒエウ閣下(右) 当財団渡邉理事長(左)



岩手県上閉伊郡大槌町 町長 平野公三様(左)
当財団渡邉理事長(右)

2026年度 事業活動予定

首里城復興祈念展

- | | | | |
|----|--------------|-----|---------------|
| 4月 | イオンモール福岡 | 6月 | イオンレイクタウン |
| 5月 | イオンモール京都桂川 | 8月 | 羽田空港 第1ターミナル |
| | イオンモール沖縄ライカム | 10月 | 中部国際空港フライトパーク |

首里城復興支援ポスターコンクール

- | | |
|-------|-----------------------|
| 7月～8月 | 募金期間 |
| 11月 | 表彰式・表彰ツアーを開催
(沖縄県) |

※2026年度：2026年4月～2027年3月



2025年度 支援金額

2,300万円

累計支援金額

34億5,000万円 ※2025年度末時点

首里城復興支援

2019年10月に、世界遺産である首里城が火災により甚大な被害を受けたことに対して、2024年度までに5億1千万円の寄付を行っています。



復元中の首里城正殿

子どもたちが首里城の再建に関心を持ち、復興の機運を醸成することを目的に、「首里城復興支援ポスターコンクール」を開催しています。また、首里城の復興状況をまとめたパネルやポスターコンクールの作品を各地のショッピングセンターや空港で展示する「首里城復興祈念展」を開催し継続的に支援を行っています。



ポスターコンクール受賞作品の展示



首里城復興祈念展で、首里城の端材を活用した
キーホルダーづくりを体験

イオンワンパーセントクラブのあゆみ

1990年の設立以来、多くのみなさまのご協力のもと、35年以上にわたり活動
を続けてまいりました。これからも笑顔あふれる未来を目指し、歩み続けます。

1990

- ★「イオングループ
1%クラブ」設立
- ✋「小さな大使」第1回開催
(現:ティーンエイジ アンバサダー)



1996

- 🌱環境庁(現:環境省)
「こどもエコクラブ」
活動支援開始

2005

- 🌱「イオン こどもエコクラブ」から
「イオン チアーズクラブ」に改称

2008

- ✋「イオン すくすくラボ」開始
- ✋「小さな大使」を「ティーン
エイジ アンバサダー」に改称

2010

- 🌱「イオン ユニセフ
セーフウォーターキャンペーン」開始



2019

- ✚「首里城復興支援」開始



2011

- ✚「東北支援」開始
(~2021年まで)

2015

- ★「公益財団法人」へ移行
(公益財団法人イオン
ワンパーセントクラブ)

2025

- ✋「イオン スカラシップ」
日本人大学生へ
対象を拡大

2003

- 🌱「中学生作文
コンクール」開始

2007

- ✚「シハヌーク・イオン
博物館」完成
- ✋「地域行事支援」開始
(現:ふるさと未来支援)

2009

- ✋「アジア大学生環境
フォーラム」
第1回開催
(現:アジア ユース
リーダーズ)

2011

- ✚「東北支援」開始
(~2021年まで)

2015

- ★「公益財団法人」へ移行
(公益財団法人イオン
ワンパーセントクラブ)

2025

- ✋「イオン スカラシップ」
日本人大学生へ
対象を拡大

2000

- 🌱「学校建設支援事業」開始



2006

- ✋「イオン スカラシップ」開始



2012

- 🌱「イオン エコワングランプリ」開始
(現:イオン サステナビリティ
アクション アワード)



2016

- ✚「未来農業 DAYS」開始
(~2020年まで)

2024

- 🌱公益財団法人
近野教育振興会より
奨学金事業を承継

- 🌱 青少年の健全な育成事業
- ✋ 諸外国との友好親善事業
- ✋ 地域社会の発展への貢献事業
- ✚ 災害復興支援事業
- ★ 事業共通

参加者の声

❖ イオン チアーズクラブ

メンバー

チアーズクラブに参加するまでは、ふだんの生活のなかで自然とじっくりに触れあう機会はありませんでした。チアーズ農園の活動で、土をたがやし、種をまいて、心をこめて植物を育てることの大変さや楽しさを知りました。私たちにたくさんの恵みを与える自然を、これからはもっと大切にしようと思います。

保護者

チアーズクラブの活動に参加することで、自然と触れ合い、自分たちで考えて学ぶことの大切さを教えていただきました。活動中、子どもが一生懸命に取り組んでいる姿を見て、成長を感じる場面が多々あります。他校のメンバーとの交流や、年上の子が年下の子の面倒をみるなど、助け合うことの大切さも学べました。子ども自身はもちろん、親としてもチアーズクラブに入会して本当によかったと感謝しております。

❖ ティーンエイジ アンバサダー

中国の参加高校生

活動を通して、日本の礼儀作法や生活習慣を実際に体験することができ、文化の違いを理解する力を養うことができました。また、コミュニケーション能力も向上したと感じています。当初は恥ずかしがって話せないことがありましたが、今では日常会話がある程度スムーズにできるようになりました。異国で遭遇する様々な小さな問題を自分で解決する方法も学びました。大使活動を通じて、自信と責任感、そして主体性を持つことができたと思います。

保護者

本人だけでなく、家族も貴重な経験をさせていただきました。相手国の高校生の受け入れ準備を進める過程で、宗教や文化の違いについて、多くのことを学ぶ良い経験になりました。息子にとって、自国の文化を改めて見つめ直し、広い世界を知る大きな一歩になったことと思います。

❖ イオン スカラシップ20周年記念式典

2024年 OG

式典の中で特に印象に残ったのは、演劇団による影絵で、日本に留学した女子学生が奨学金を受け取り努力を重ねて成長していく姿を描いた物語でした。その内容は私自身の経験とも重なる部分があり、大変感動しました。

2013年 OB

式典の後に、ベトナムのOB・OGと集まり、自分たちでベトナムの子供を支援する基金を作る計画について意見交換をしました。これまでは支援を受けた側でしたが、今後は出来る範囲で支援する側になりたいと思っています。

❖ 首里城復興祈念展

ワークショップ参加者

首里城の復元工事で実際に使われている木の端材を使ったワークショップはとても楽しかったです。展示やワークショップの体験を通して首里城の復興状況について知ることができ、正殿が完成する今秋にぜひ沖縄に行きたいと感じました。

2026年度 理事・監事・評議員一覧

❖ 理事長

渡邊 廣之

イオン株式会社 顧問

❖ 監事

瀬戸 英雄

LM 虎ノ門南法律事務所 弁護士

森 正勝

国際大学 特別顧問 名誉教授

若生 信弥

元イオン株式会社 執行役副社長

❖ 理事

池野 隆光

ウエルシアホールディングス株式会社 会長

榎本 知佐

明治大学 理事

大野 恒太郎

公益財団法人国際民商事法センター 理事長

鹿取 克章

公益財団法人日韓文化交流基金 理事長

小島 明

公益社団法人日本経済研究センター 参与

徳田 克己

筑波大学 名誉教授

西谷 義晴

元イオン株式会社 執行役

吉田 昭夫

イオン株式会社 取締役兼代表執行役社長

❖ 評議員

縣 厚伸

元イオン株式会社 常務執行役

岡田 元也

イオン株式会社 取締役兼代表執行役会長

柴田 英二

イオン株式会社 顧問

杉村 美紀

上智大学 学長

田中 愛治

早稲田大学 総長

藤崎 一郎

一般社団法人日米協会 会長

望月 晴文

東京中小企業投資育成株式会社 特別顧問

山下 昭典

イオン株式会社 顧問

横尾 博

元イオン株式会社 取締役会議長

渡辺 好明

新潟食料農業大学 名誉学長

氏名五十音順・2026年6月現在

2026年度寄付・協賛企業一覧

- イオンフィナンシャルサービス株式会社
- イオン株式会社
- イオンモール株式会社
- ウエルシアホールディングス株式会社
- イオンディライト株式会社
- マックスバリュ東海株式会社
- イオン九州株式会社
- 株式会社フジ
- まいばすけっと株式会社
- イオンビッグ株式会社
- 株式会社イオンファンタジー
- イオン北海道株式会社
- イオンエンターテイメント株式会社
- イオンタウン株式会社
- イオン琉球株式会社
- イオンマーケティング株式会社
- イオンペット株式会社
- イオン・リートマネジメント株式会社
- 株式会社キャンドウ
- イオン商品調達株式会社
- イオンリカー株式会社
- イオンフードサプライ株式会社

- イオントップバリュ株式会社
- オリジン東秀株式会社
- リフォームスタジオ株式会社
- 株式会社生活品質科学研究所
- メガペトロ株式会社

(計27社)

イオングループ各社

- GMS事業(総合スーパー)
- SM事業(スーパーマーケット)
- DS事業(ディスカウントストア)
- ヘルス&ウェルネス事業
- 総合金融事業
- ディベロッパー事業
- サービス・専門店事業
- 機能会社

利益の1%を寄付

公益財団法人

ワンパーセント
イオン1%クラブ

✕ 寄付・協賛企業代表より



株式会社フジ
代表取締役社長
山口 普

当社は、中国・四国・兵庫エリアNo.1のスーパーリージョナルリテイラーとして、中四国地方と兵庫県の10県にわたり498店舗(2026年5月現在)を展開しています。企業理念に「豊かな暮らしづくりの提案」、「地域社会の発展に貢献」、「人々を大切にする」ことを掲げ、地域のお客さまの日々の暮らしに寄りそう商品・サービスの提供に取り組んでいます。

また、サステナビリティの推進においては、「環境」と「社会」の両面において地域に根差した活動を地域の皆さまとともに積極的に取り組み、持続可能な社会の実現を目指しています。特に社会面においては、地域のスポーツ振興や文化活動、防災・福祉分野への支援などを通じて、地域コミュニティの活性化にも取り組んでいます。

このような考えのもと、当社はイオンワンパーセントクラブに利益額の一部を拠出し、さまざまな社会貢献活動を推進しています。特に地域社会の発展への貢献である「ふるさと未来支援」では、愛媛県宇和島市の牛鬼祭や山口県伝統芸能保存会など、営業圏内のお客さまに長く愛され続けている貴重な伝統文化・芸能の継承支援を行っています。こうした活動には従業員も積極的に参加し、地域の皆さまと交流を深めながら、次世代へ地域文化をつないでいます。

当社は、これからも地域のお客さまとともに歩む企業として、イオンワンパーセントクラブと連携しながら、持続可能な社会の実現に向けた社会貢献活動をさらに推進してまいります。



まいばすけっと株式会社
代表取締役社長
岩下 欽哉

当社は、2005年に神奈川県横浜市で誕生した小型の食品スーパーです。「あなたの日常に笑顔で寄り添い、心豊かな地域社会を創る」というミッションを掲げ、現在東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に1,337店舗(2026年5月末時点)を展開しております。都市部においても、生活必需品の購入に際してご不便やご不安を抱えている方が多く、便利で安心な生活を皆さまに営んでいただきたいという想いを基に、「近い、安い、きれい、そしてフレンドリー」というコンセプトを掲げております。

また、当社のサステナビリティ基本方針に則り、環境や地域社会の課題を解決するため、地域のお客さま、お取引先さま、従業員とともに、より便利な「お買い物環境」と「持続可能な社会」の両立に向けた活動を推進しています。皆さまの生活をより心豊かにするためにも、まいばすけっとが掲げる「やさしい店づくり」、「食を守る」、「共に生きる」の3つの方針と6つの方策に則り、日々のお買い物と店舗運営を通じて、環境・地域社会貢献への歩みを続けております。イオンワンパーセントクラブへ利益の一部を拠出し、地域社会の持続的発展に貢献していきたいと考えております。

お客さまはもちろんのこと、当社の運営に携わっていただいている皆さまのおかげで、当社の店舗数は2021年に1,000店舗を超え、現在は2,000店舗に向かって邁進しています。都市で生活する全ての人々のくらしを豊かにすること、心を豊かにすること、そのような地域社会を皆さまと共に創り上げていくこと、これが私達の使命であり、成長の原動力です。

きれいな笑顔を皆さまの日常に咲かせられるよう、これからも地域の皆さまに寄り添ってまいります。